

2020年4月1日

中国山西省がコークス産業の「閉小上大」主導施策を実施中

CMI

「閉小上大」は、山西省政府主導施策で、小企業或いは小規模の生産設備を徹底的に淘汰し、同規模またはそれ以上の大型設備での生産を奨励することで効率を高め、エネルギー消費を低減し、汚染物質の排出を減らす効果があると期待されている。

潞安焦化有限公司の年間140万トンのコークス炉プロジェクトは、山西省のコークス産業の閉小上大施策に基づく「1,000万トンのコークス化基地」の構築の一環である。

炉高6.25m、2×60門のスタンプチャージ炉で、年間生産能力は、コークス140万トン、ターナル79,200トン、粗ベンゼン18,900トン、硫酸アンモニウム15,800トン、COG(コークス炉ガス)6億3,300万m³である。

プロジェクトは2020年2月28日に建設を開始し、2021年6月30日に完成して稼働する予定である。

出典：ICC 鑫權資訊